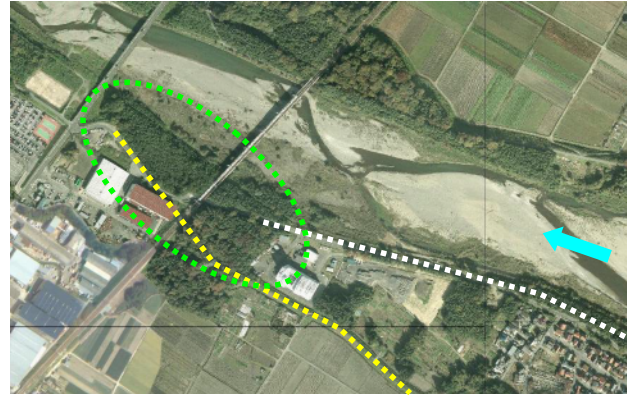


水害との闘い(先人の治水対策)

霞堤

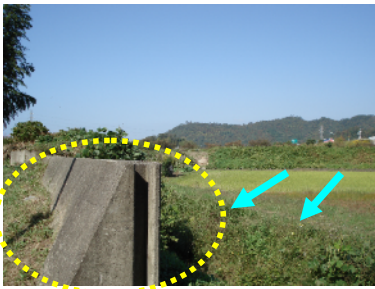


安曇川(高島市)



愛知川(東近江市)

輪中堤



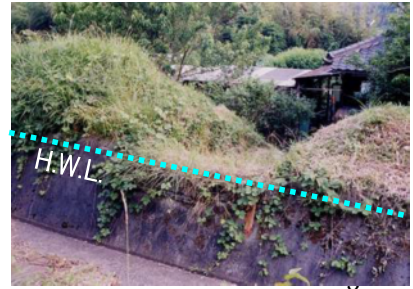
天野川(米原市)

手堤



野洲川(守山市)

水落とし



八田川(高島市)

水害との闘い(先人の治水対策)

「太鼓水」

大水のことを、「太鼓水」といいました。大水になると、堤防に祭り太鼓を出して、叩くのです。この太鼓が鳴ったら、お寺や学校に避難したものです。

いつ太鼓を叩くかということは、区長が判断しました。区長が消防に伝えます。各組に水防係というものがいて、消防だけでは回りきれない仕事をするようになっていました。本庄は十八の組みに分かれていますので、各組一人ずつ、18人の水防係がいます。

「シブキ」

「権現さんあたりがあぶない。堤防が切れそうだ」というと、宮の前あたりの大きな木を切って、川の中へ投げ込みます。「シブキ」を築くのです。

堤防の下の方は皆蛇籠に山石を詰めたものを入れて、補強していたときもありました。そうしてあると、水はくぐるけれど堤防が切れるということはないということです。

昔は、「川の端の木は切るな」といわれていたものです。大木は、水害のときのためにとっておいたのです。